

平成28年10月11日

2学年生徒・保護者様

神奈川県立厚木北高等学校
校長 額田 豊一

平成28年度 第1回「生徒による授業アンケート」の集計結果等について（2学年）

時下、保護者の皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。現在、その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取り組みを進めております。

つきましては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取り組みの概要をご覧いただき、ご質問・ご意見等、お気づきの点がございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。

（厚木北高校 副校長 046-241-8002）

1. アンケートの実施日

平成28年7月14日（木）

2. 各教科の集計分析・授業改善（概略）

国語	集計分析	現代文では、「授業が理解できている」、「生徒の発言や反応を大事にしている」という項目において3・4と答えた割合が多かったが、一方で「話し合いや発表をする機会がある」、「予習・復習をしている」という項目においては1・2と答えた割合が多かった。 古典Aでは、「公平に接している」の項目で特に3・4の回答が多く、取組状況も良好であったが、授業内容についての満足度が低く、「予習・復習をしている」の項目でも低い評価となった。 古典Bでは、授業内容、指導方法については3・4の回答が多くなっており、取組状況も概ね良好であったが、予習・復習が不十分であることを生徒自身が感じているようである。
	授業改善	現代文においては、生徒が自由に話し合ったり、意見を述べたり、互いに学び合ったりできるような活動を考え、授業に取り入れていきたい。 古典においては、教材の精選と授業を進めるスピードの問題があり、工夫が必要と思われる。 また、現代文・古典ともに授業に対する意欲はあるものの家庭学習に結びついていないという側面があり、家庭学習用課題の作成や、予習・復習についての的確な指示が必要と思われる。
地歴・公民	集計分析	「チャイムと同時の授業」などをはじめとして、授業内容に関する項目では概ね高い評価を得ることができた。指導方法や生徒自身の取組状況に関する項目では「公平に接している」の項目などでは高い評価を得られたものの、「予習・復習をしている」、「話し合いや発表をする機会がある」の2項目が極端に低い評価であった。
	授業改善	全項目の中で最も評価の低かった「予習・復習」の部分を改善するため、授業外での課題や、小テストの機会を積極的に設ける。また、「話し合いや発表の機会」を増やすために、丁寧でわかりやすい説明を心がけながらも生徒が発表する場面を授業内で織り込んでいきたい。
数学	集計分析	多くの項目で3・4の割合が昨年に比べて若干増えていることは喜ばしいことである。低い評価であった項目は「興味関心がもてる授業」「生徒の理解度に合わせた授業」「話し合う機会や意見などを発表する機会」の3項目であった。「予習・復習」の項目で、約30%の生徒が1・2の評価をつけている点が特に気になる部分である。
	授業改善	生徒が意欲的に授業に取り組むことができるよう、興味、関心を深められる授業を行う。生徒の理解度に合った授業展開や発問の仕方を一層工夫することなどにより、生徒が毎時間、充実感・達成感を味わえるよう授業改善を図りたい。また、生徒の授業に対する意欲は十分に感じられるので、課題の頻度を上げることなどにより、生徒自身が自学自習する習慣を身につけさせ、授業にも積極的に参加できるようにさせていきたい。

平成28年度 第1回「生徒による授業アンケート」の集計結果等について（2学年）

理科	集計分析	化学基礎と化学基礎研究では、積極的に授業に取り組んでいる様子が伺えた。生徒自身の「予習・復習の取り組み」、「わかる努力」に関しては評価が低かった。理系選択の物理基礎研究と生物基礎研究で評価が最も低かった項目は「予習・復習の取り組み」であった。これ以外で評価が低かった項目は、物理基礎研究では「授業内容の理解」、生物基礎研究では「理解度に合わせた授業」、「きめ細かい指導」であった。
	授業改善	家庭学習の習慣化を図るための課題を提示していきたい。また、実験などを多く取り入れ、体験的な活動や視覚的に理解しやすい教材の工夫に力を入れていきたい。特に理系選択の2科目に関しては、3年次の学習につなげるための専門的な内容も多く取り入れているため、学習の定着を図るためにも生徒主体の授業展開をしていきたい。
保健体育	集計分析	体育においては、殆どの項目について80%以上の生徒が「3」「4」の評価であり、概ね良い結果といえるが、武道においては、「興味・関心のもてる授業」、「きめ細かい指導」の項目で80%を下回っていたことから、授業改善の必要性を感じた。また、「話し合いや発表をする機会」、「わかる努力」、「予習・復習」の項目において80%を下回っていたのは、実技科目であるためと考えられる。 保健においても、殆どの項目について80%以上の生徒が「3」「4」の評価であり、概ね良い結果といえるが、「わかる努力」、「予習・復習」など評価の少し落ちる項目もみられるので、授業改善の必要性を感じた。 スポーツ概論・スポーツ科学研究においては、学習内容がやや難しいことは否めず、理解しにくい、取り組みにくいと感じる生徒が20%近く存在することから、やはり授業改善が必要という結果となった。
	授業改善	体育においては、武道に苦手意識を持っている生徒にもしっかりと目を向けて、興味関心を引き出す工夫を取り入れた授業を行っていく。これは、昨年度のアンケートと同様の反省・改善事項となってしまった。 保健やスポーツ概論・スポーツ科学研究においては、講義型の授業から、話し合いや発表などアクティブラーニングという手法を取り入れた授業形態を導入し、より生徒自らが考える授業としていく。
芸術	集計分析	どの項目においても、概ね70～80%の生徒が授業内容・指導方法ともに肯定的回答であると分析できた。一年の授業で積み重ねてきた経験が、応用的な課題に取り組む際の糧となっており、生徒たちがより積極的に臨める授業になってきている。
	授業改善	生徒の興味・関心に応じた教材の精選はもちろん、前回から改善されたわかりやすい授業を活かし、生徒の理解をより深めるという点は引き続き継続していく。少なくなりやすい発表や話し合いの場などを増やし、生徒が積極的に臨めるような授業の工夫や、生徒が授業外でも進んで芸術活動に取り組む意識を持たせる工夫をしていく。
英語	集計分析	コミュニケーション英語Ⅱでは、授業内容の4項目、指導方法の5項目で、80%近い生徒が満足しているという結果になった。しかし、約30%の生徒が授業内容をあまり理解できていないと感じており、達成感もそれに準ずる結果となっている。難しい内容を取り上げるレッスンをいかにわかりやすく授業するか、工夫する必要がある。 英語表現Ⅰでは、授業内容、指導方法ともに約80%の生徒が満足しているという結果になった。一方で、生徒自身がわかる努力をしているかという質問に対し約30%の生徒が1・2の評価をつけたという現状を踏まえ、今後はより一層生徒が積極的に授業に参加できるよう工夫、改善していく必要がある。
	授業改善	コミュニケーション英語Ⅱでは、習熟度別の授業を展開しているという利点を生かし、生徒1人1人をしっかりと見て、各生徒が今以上に授業内容を理解でき、授業に参加しているという達成感を持てるよう工夫された授業を行う。 英語表現Ⅰでは、文法項目の習得だけでなく、生徒が実際に話したり書いたりできるような言語活動を行う場面を設定することで、意欲的に授業に臨めるよう工夫を行う。
家庭	集計分析	授業内容・指導方法ともに約80%の生徒が3・4を選んでいる。被服理論・被服実習の授業では、関心を持ってない、理解しにくいと感じた生徒も見受けられた。興味関心を持てるような教材づくりなどの工夫を、今後も続ける必要がある。
	授業改善	生徒が安全かつ積極的に参加できる授業内容と指導方法の工夫に努めたい。授業の目標を明確にし、達成感を持てるような授業を行っていきたい。